

教育長コラム

No.07

谷川俊太郎さんから学んだこと

「カムチャッカの若者が きりんの夢をみているとき メキシコの娘は 朝もやの中でバスを待っている」谷川俊太郎作の詩「朝のリレー」冒頭の一節です。教員時代の、この詩について

の授業は、楽しい思い出の一つです。「カムチャッカ」というリスミカルな響き、異国の街へのフープ…この書き出しから、読み手は未知の世界への扉を開きます。皆で心弾ませながら音読し、地球を外から概観し、今この瞬間の地球の向こう側に思いを馳せました。その時に、「ぼくらは朝をリレーするのだ」「経度から経度へと そうしていわば交替で地球を守る」のフレーズから、まだ見ぬ世界の友と、地球の美しさと平和を一緒に守っていきたい、そんな展望を、中学生と共有したものでした。

「かっぱかっぱらった」(「こぼらっぱかっぱらった」(「こぼらあそびうた」(福音館書店)所収、詩「かっぱ」より)〜日本語の魅力と神秘を実感しながら、教室皆で、大きな声で「言葉遊び」を楽しみました。

「生きてくる」といって、ま生きてくる「生きて」といって、ま「生きてる」〜この作品の中で谷川さんは、「生きてること」「生きていること」「生かすこと」「生かされること」「生かすこと」「生かされること」を思いつくほど、日常出会う様々な事象や感覚を綴りながら、「あなたと

手をつなぐこと」「かくされた悪を注意深くくばむこと」「人は愛するということ」と、人として生きていく上での大切にしたいことを謳っておられます。

日本全国、いえ、世界中で、谷川俊太郎さんの詩や言葉に、多くの人が、惹かれ親しんできました。私もその一人として、また教員として、谷川さんの作品世界に魅せられてきました。

谷川さんの詩の数編は、メロディも付けられ、合唱曲としても広く親しまれています。「この気もちはなんだらう目に見えないエネルギーの流れが 大地からあしのうらを伝わって・・・」(詩「春に下り」)「春」という季節、大地に立つ若者の、「よろこび」「いらだち」「あこがれ」「もどかしさ」などの、様々な感情のせめぎ合いが続きます。この季節に誰もが抱く不安定さや揺れとともに、可能性を信じる心持ちを謳い、生きることの厳しさ喜びを謳い上げます。

また、詩「信じる」も、合唱曲のスタンダードナンバーとなっています。10年ほど前校長として着任した稲城第四中学校では、当時、学校行事「合唱コンクール」第3学年の「課題曲」として、「信じる」が歌われていました。「自分にうそがつかない私 そんな私を私は信じる 信じることに理由はいらない」葉末の露がきらめく朝に 何をみつめる小鹿のひとみ すべてのものが日々新しい そんな世界を私は信じる」〜小さきものに心を寄せ、世界の現実を直視し、美しいものに感動する、そのよ

うな人間としての素直な姿勢をもつ自分を、まずは自分自身が信じていこうという、若者への温かく力強いイエールに満ちた作品です。生徒達は、谷川さんが

らのメッセージを共有し、詩の心を確実に受け止め、さらに聴く人への思いをしつかりと伝えようと、真剣に歌唱に取り組みました。そして本番、彼ら彼女らは、まぶしく熱いライトを全身に浴び、暗い客席に相対し、自分の力を信じ、自分を励まし、仲間との心の絆をたよりに、見事に「信じる」を歌い上げました。私も、その生徒達の姿から、「自分を信じる」との意義に、心の底から感じ入りました。

易しく親しみある言葉を登場させながら、人間の深層や世界の様子に気付かせ、人として生きていくための姿勢を考えさせてくれる谷川さんの作品の数々には、本当に多くの人々が、様々な思い出をおもちのことでしょ。私はまた、教育に携わってきた経緯から、中学生とともに谷川さんの作品に触れ、感動を分かち合うという幸運にも恵まれました。谷川さんの作品から、言葉を介して一人ひとりが情景や心情を自在に想像し、その考察を仲間と共有するという、学び合いの基本的な意義を実感してきました。

現在も、本市立小中学校が使用している教科書には、「生きる」(小学校第6学年・国語科)、「春に」(中学校第3学年・国語科)(中学校・音楽科)が掲載され、本市の子ども達は谷川さんの作品に学んでいます。日本人の一人ひとりがその作品に日々触れ、何かを想った谷川さんの作品は、同じように、稲城市の児童・生徒、さらに稲城で学び成長された皆様にも、貴重な学びを届けてくださいました。

また最近、令和5年11月、岩波書店から、谷川さんとブレイドイミカこ氏の往復書簡形式による書籍『その世の世』が刊行されました。私は、令和

6年1月定例校長会冒頭挨拶において、同書の読後感とともに、生と死の連続性に視点を据えながらの一連のやり取りを紹介しながら、同書内にてブレイドイ氏により言及されている「人間が脳をアップデートしてデータとして生きるようになる」という「トランスヒューマン」について英国の若い世代の間で議論されている」との箇所を提示し、「人間同士が直接触れ合い、相対することに価値を置いていきたい」との考え方を、お示しいたところ。同書ではさらに、終末箇所にて、谷川さんが、「本来群生動物である人間が、いつからか群れの中の一人ひとり、つまり個人として目覚めそれがついにA-1にまで進化?」始めた、その事実が私たちが未来への展望と同時に、漠とした不安を感じているのも事実です。」と述べられています。

谷川俊太郎さん、令和6年11月13日、92年の生涯を閉じられました。残された作品は、これからも永く、私達に、人間観や世界観を、問い続けていくのでしよう。私も、さらに文明的進化を遂げていく世界を見据え、発展を享受し活用しながらも、時に谷川さんのメッセージに立ち返り、人間として必要な力、在るべき姿を追求していかねばならないと思っております。

稲城市教育委員会教育長 杉本真紀子

【引用・参考】 谷川俊太郎 「朝のリレー」「かっぱ」「生きる」「春に」「信じる」 谷川俊太郎 ブレイドイミカこ 『その世の世』(岩波書店)

教育委員会紹介

9月30日付にて教育委員会委員の吉田伸幸氏及び三戸美代子氏が退任されたことに伴い、9月の第3回市議会定例会で同意を得た後、田中教仁氏及び上林秀之氏が新たに市長から任命されました。教育委員会は教育長及び4人の委員で構成されています。委員は、教育、学術及び文化に関し識見を有するものから任命されており、任期は4年です。教育委員会は、合議制のもと稲城市の教育に関する方針の決定を行っています。

<p>教育長</p>  <p>杉本 真紀子 任期：令和6年10月15日～令和9年10月14日</p>	<p>委員(教育長職務代理者)</p>  <p>白井 妙子 任期：令和5年10月1日～令和9年9月30日</p>	<p>委員</p>  <p>北川 英一 任期：令和4年10月1日～令和8年9月30日</p>
<p>委員</p>  <p>田中 教仁 任期：令和6年10月1日～令和7年9月30日</p>	<p>委員</p>  <p>上林 秀之 任期：令和6年10月1日～令和10年9月30日</p>	

▷問合せ 教育総務課

「稲城市地域教育フォーラム」を初開催します

「稲城市地域教育フォーラム」を初開催します。第1部では、稲城市の子ども達に関わる団体・組織・学校・園の一体的な取組や実践の成果について直接団体等が発表し、第2部では、文化庁次長の合田 哲雄氏が講演会を行います。市内在住・在学・在勤の方ならどなたでも参加できます。子どもも大人も皆が幸せや生きがいを感じられる学びの在り方について「稲城市地域教育フォーラム」で共に考えましょう。

日時：令和7年1月25日(土) 午後1時30分～4時30分(開場1時)
会場：中央文化センター ホール
第1部：【発表】稲城市の地域教育団体等による活動内容
第2部：【講演会】講師 合田 哲雄 氏(文化庁次長)

●講師プロフィール



合田 哲雄 氏
平成4年文部省入省
国立大学法人化や学習指導要領改訂を担当
初等中等教育局教育課程課長、内閣府・審議官等を経て現職
「学習指導要領の読み方・活かし方」、「学校の未来はここから始まる」等著書多数

▷問合せ 指導課

市立小中学校の入学式等の日程

令和7年度の市立小中学校入学式等の日程については下表のとおりとなりますので、お知らせいたします。

	入学式	始業式
小学校	4月8日(火)	4月8日(火)
中学校	4月9日(水)	4月8日(火)

▷問合せ 指導課